

「浜口梧陵－「稲むらの火」のモデル」展示リスト

令和元年9月1日

	書名	著者	出版社	出版年	備考	請求記号
1	勝海舟全集 別巻 来簡と資料	勝海舟／著	講談社	1994	p834-835,841 浜口梧陵碑撰文ならびに題額	0815/KA87/K^ 0816/13/^ (東部)
2	銚子の歴史と伝説	銚子市郷土史談会／編	銚子市青少年文化会館	1993	p31-37 「進取の気性 郷土愛に燃えた ヤマサ七代 浜口儀兵衛 号 梧陵	C235C/C55/16 C235/K02- 25 (東部)
3	津波とたたかった人 浜口梧陵伝	戸石 四郎／著	新日本出版社	2005	著者は銚子市在住。他に、『浜口梧陵物語 「稲むらの火」をかかげた人 「千葉・東総物語」シリーズ』（多田屋 2009）	C289/ハ 1 C289/ハ 2 (東部)
4	濱口梧陵と医学	川村 純一／著	峯書房出版	2008	梧陵は江戸末期から明治初期にかけて、銚子に於けるコレラの防疫に努めるなど近代医学の発展に貢献した。	C289/ハ 3 C289/ハ 1 (西部) C289/ハ 3 (東部)
5	津波救国 <稲むらの火>浜口梧陵伝	大下 英治／著	講談社	2013	幕末、明治維新の動乱を駆けぬけた傑物の全生涯を描いた小説。2016年に『11・5津波救国 <稲むらの火>浜口梧陵伝』として改訂版を刊行（東部所蔵）	C289/ハ 7 C936/杠 1 (東部)
6	浜口梧陵伝	杉村 広太郎／編	浜口梧陵銅像建設委員会（和歌山）	1920	編者は梧陵と同郷（和歌山県）の東京朝日新聞記者。関東大震災後は千葉県我孫子市に移住し、随筆家、俳人として活動する。筆名は「楚人冠」。『楚人冠全集 第7巻』（日本評論社 1937）にも所収。	C28/H23/2
7	津波だ!いなむらの火をけすな	桜井 信夫／脚本 藤本 四郎／画	都市防災研究所	2005	紙芝居。内閣府防災担当のホームページに、防災教材として掲載されています。（ダウンロード可） http://www.tokeikyou.or.jp/bousai/inamura-pshow-top.htm	C3693/79
8	災害対策全書 4 防災・減災	ひょうご震災記念21世紀研究機構災害対策全書編集企画委員会／編集・発行		2011	p188-189「概説「地域防災力」とは一濱口梧陵に学ぶ（矢守克也）	3693/86/4 (中央)
9	戸石四郎発言全文 関寛斎と濱口梧陵に学ぶ地域医療と防災 住民百世の安堵を計る	戸石 四郎／[述]	[戸石四郎]	2014	2014年11月8日、銚子市保健福祉センターで開催された「シンポジウム 銚子」での著者の発言をまとめたもの。	C498/120
10	ヤマサ醤油店史	ヤマサ醤油株式会社／編集	ヤマサ醤油	1977	三部構成。第1部は店祖初代儀兵衛より十代儀兵衛(先代)に至る代々店主の事蹟、第二部はその代々を支えた支配人達の行蹟、第三部は代々の仕事の現場を担当した杜氏達について。梧陵は七代目。	C588/Y43/2

※請求記号欄の（ ）がついている資料は個人貸出しが可能です。（ ）がついていない資料は千葉県立中央図書館千葉県資料室で所蔵しています。